

し か

ShikaTown

富来高等学校

県立富来高校



県立高浜高校

地域と共に歩んできた富来高校と高浜高校は3月で閉校
両校の歴史と伝統は志賀高校に受け継がれていく

INDEX

富来高校、高浜高校閉校式	2～5
まちかどルポ	12～13
情報パーク	14～15
生涯学習だより	17～19

4
2011
No. 68

地域と共に歩んできた69年間 多くの人に愛された富来高校が閉校

「最後の」卒業式

3月6日(日)に富来高校で、卒業式が行われ50人が卒業しました。

式では卒業生一人ひとりに卒業証書が授与されました。

学校長式辞の後、生徒代表が感謝の言葉を述べました。

林亜祐美さんは「3年間で一番悲しかったのは、入学式の時点で最後の卒業生だと決まっていたこと。それでも、部活動に打ち込んだり、かけがえのない友人を得たり、恋をするなど学園生活を謳歌しようとして頑張ってきました」と高校生活を振り返りました。大家航輝君は「伝統あるホッケー部の有終の美を飾るため、インターハイに出場す

るという目標を掲げたものの、部員不足によって出場できないかもしれないという危機を、野球部とバスケット部に協力してもらいインターハイに出場できました。富高祭も1学年しかいないため、後輩の分は、保護者からの応援と協力をもらい充実したものになりました。行事を一丸となつて達成してきたことにより、精神的に大きく成長できました」と話しました。

最後に2人で、「富来高校というまるで陽だまりのような温かい場所で、3年間を過ごすことができました」と先生や両親に感謝の言葉を伝える会場の涙をさそいました。



生徒一人ひとりに卒業証書が手渡された



感謝の言葉を述べる大家君と林さん

校歌

作詞 中谷喜太郎
作曲 須摩洋朔

妖星高くかゝるとも
怒涛に煙る北洋の
大空限るこの響
あゝ意気高し富来高校
真理に赤き血を求め
泪は熱く砂白し
この学び舎の輝かに
あゝ麗しき富来高校
常磐の松に篝火して白夜に燃
ゆる胸の火を
狂ふと人の言ふまでは
あゝ謳はなん富来高校
今ぞ故郷に夢多く
瞳をそゝる能登が富士
この里にして青春の
あゝ名に負はん富来高校

学校がなくなることの重さを実感している

卒業式に続いて行われた閉校式は、閉校記念事業実行委員会が呼び掛けて、歴代校長や教職員、卒業生など約400人が集まりました。

卒業生を代表して、閉校記念事業実行委員会委員長の寺井強さんが「小さな町に高等教育を受ける場として富来高校が誕生しました。しかし、残念ながら過疎化、少子化の影響で、本日、閉校を迎えることになりました。富来高校はなくなりませんが、私たち同窓生は先輩、後輩として、先生方とは恩師として強い絆で結ばれています」と挨拶しました。

惜別の辞では、奥下雅士君が「入学以来、何をして『最後の』と言われ続けました。そのときは深く考えませんでした。閉校の日を迎え、一つの学校がなくなるこの重さを実感せずにはいられません

ん」と富来高校との別れを惜しみ、「私たちの富来高スピリットは志賀高校という新たな命に引き継がれていきます」と話しました。



奥下君の惜別の辞に多くの人が涙した



校旗を返納



全員で校歌斉唱



閉校式に訪れた卒業生たち

富来高校の沿革

- ・富来高校の前身である女学校は、昭和16年12月に町立実科高等女学校として認可。
 - ・昭和19年4月には実業学校令によって石川県富来農業学校が開校。
 - ・昭和23年に石川県富来高等学校の設置が認められ、昭和25年4月に石川県に移管して石川県立富来高等学校が誕生。当初は150人の生徒が入学。
 - ・昭和45年には第1体育館が完成し部活動に力をつける環境となった。
 - ・昭和54年には第2体育館が完成。
 - ・平成5年には国際色豊かな人材を育成する目的で県内で初となる国際コースが設置された。
- 富来高等学校はこれまでに7,689人の卒業生が羽ばたいて行きました。

46年間の歴史に幕を閉じた高浜高校

歴史や伝統は志賀高校に受け継がれていく

目の前には大きな世界が広がっている

3月6日(日)に高浜高校でも最後となる卒業式が行われ、3年生48人は母校に別れを告げました。

式では卒業生一人ひとりに卒業証書が授与されました。

在校生代表で、志賀高校2年の盛本圭人君が「部活動や学校行事などをおして努力や継続の大切さを身をもって教えていただきました。先輩方から教わったハマナス根性をしっかりと受け継いでいきたいと思います」と送別の言葉を贈りました。

続いて、卒業生を代表して白山浩貴君が、浜高祭やマラソン大会など高校生活の思い出を話し、「目の前に広がる

大きな世界に期待を膨らませています。将来への不安や困難が待ち受けていると思えますが、共に学んだ友人たちと乗り越えていきたいと思えます。今日で高浜高校はなくなります。私たちの思い出の中に存在し続けます。これから、その魂を志賀高校が受け継ぎ、新たな伝統を築いて

いってほしいと思います。先生や両親から教わった思いやりを持つこと、あきらめないこと、一生懸命やることなど大切な心を忘れずにそれぞれの進路に旅立っていきま

す」と答辞を述べました。



- ①卒業生一人ひとりに卒業証書が手渡されました。
- ②在校生代表で、志賀高校2年の盛本圭人君が卒業生に送別の言葉を贈りました。
- ③卒業生を代表して、白山浩貴君が答辞を述べました。

校歌

作詞 伊馬 春部
作曲 折本 吉数

玫瑰のきよき香気と
はまなすのきびしきいのち
身にひめて ここに学べば
わが日は 充実す

見よ日本海
海阪のかのはるけさー
わき来たる無限の希望

胸高く張り はげむもの
その名も高き 高浜の

若人われら
わが母校 高浜高校
わが母校

ああ
光りあれ
誉れあれ

浦浦の 栄えのままに
いにしえゆ 今につづきて
能登の空 とどろきわたる
海鳴りは
われらの鼓動

高浜 高浜
ああ 高浜の
若き鼓動よ
若き鼓動よ

ハマナスのように強く生きていく

卒業式の後、同窓生や旧職員など約300人が見守る中、閉校式が行われました。

閉校式実行委員会委員長の船登輝久さんが「かけがえない青春を過ごした母校が閉校式を迎えることになりました。閉校は本当に残念で、卒業生の一人として深い悲しみとつらさを感じえません。私たちが愛してやまない校歌が日本各地で歌い継がれていくことを確信しています」と挨拶しました。

惜別の言葉では、阿部竜也君が「高浜高校の歩みには豊かな自然と地域の方々の温かい支援がありました。私たちが入学したときには閉校が決まっていました。そのときは入学した喜びや勉強、部活と余裕がなく実感がありませんでした。3年生になり高浜高校生は私たち48人だけになりました。高浜高校が本当にな

くなると実感したのは、校舎内の片づけをしていたときです。教室や実習棟が少しずつ空っぽになっていくのは寂しい気持ちでいっぱいでした。貴重な3年間を最後の高浜高校生として過ごしたことは将来、意味のあることになると確信しています。私たちの胸には別れの寂しさと母校がなくなる無念さが募るばかりですが、これからはハマナスのように強く生きていきたいと思えます」と別れを惜しみました。

校旗を返納した後、全員で校歌を歌い、それぞれの青春時代を思い出し涙する人もいました。

閉校記念事業として記念碑が建立され、同窓会長でもある船登輝久さんと生徒代表の湊端有里奈さんが閉校記念碑の除幕を行いました。



校庭に建てられた閉校記念碑の除幕の様子



惜別の言葉を述べ、母校との別れを惜しむ阿部竜也君

高浜高校の沿革

- ・高浜高校は、昭和40年4月に県立羽咋高等学校高浜分校（全日制）を独立させ、県立高浜高等学校として発足。初年度の入学生は普通科100人、家政科50人。
 - ・昭和41年4月からは家政科の募集を停止し、商業科を設置。
 - ・昭和43年から校舎や体育館、運動場を整備し、昭和46年11月には新校舎落成式が行われた。
 - ・平成3年4月に機械システム科を設置し、9月に実習棟が完成。
 - ・平成4年4月に商業科の募集を停止し、情報会計科を設置。
 - ・平成14年3月に情報会計科の募集を停止。
- 高浜高等学校はこれまでに6,948人卒業生を輩出し、46年の歴史に幕を閉じました。